



GEKKAN ORIMOTO

## 月刊 織本

8

2011年8月1日 Vol.204

発行 医療法人財団 織本病院  
 印刷 〒204-0002  
 東京都清瀬市旭が丘 1-261  
 TEL 042-491-2121  
 URL <http://www.orimoto.or.jp/>  
 発行人 高木 由利



## 手をつなぎ 心をつむぐ みどりの清瀬

理事長・院長 高木 由利



私の家のベランダにはミニトマトが鈴のような実を付けています。今年の暑さがトマトには良いと思いましたが、毎日の暑さにはちょっと困っていました。しかも、熱中症の方々が続々来院されるのをみていると私達医師がもっと日常生活への注意点を指導していく責任を感じてしまいます。

\* \* \*

7月19日の夜は清瀬ロータリークラブの定例会で卓話を聞くチャンスがありました。今回の講師は清瀬市の新しい市長、渋谷金太郎氏でした。私は初めてお目にかかったのですが、まだ若い市長さんです。そしてとても気さくな方とお見受けしました。講演はおよそ40分で清瀬市の今後の展望などもお話して下さいました。

清瀬市は人口72,984人。緑が多く豊かな水と土に恵まれているため、誰にでも誇れるステキな農作物の収穫があるそうです。食事療法をライフワークとしている私にとっては心温まる情報です。

その様なお講演の中で、“手をつなぎ 心をつむぐ みどりの清瀬”という清瀬市の標語に心が動かされました。

清瀬市は市長さん自らこの標語をご自分の理念とし

て市役所の方にご講演され、まず清瀬市役所がこの理念に基づいた活動を目指しているというのです。これは、表現こそ違いますが織本病院の理念と非常によく似ています。

## — 織本病院理念 —

- ・ 患者様に満足して頂ける医療を提供する
- ・ 患者様と職員、双方が癒される病院にする
- ・ 互いにいたわり合う職場を創る

私はお野菜を作ったりする能力はありませんが、医療を通して清瀬市の中でこの理念を実践することができると思いました。

## ◎ 手をつなぎ 心をつむぐ

市民の方々と病気について共に語り、どのように治療をしていくか話し合い、1つのチームとして活動する。

## ◎ みどりの清瀬

美しい清瀬のみどりを守るため院内のゴミの分別を含め、環境を破壊しない努力をする。

きっとまだまだ医療を通して私達ができることはたくさんあると感じます。そのためにまず織本病院の職員1人1人が謙虚に、そして誠実に理念を目標とし

た生き方ができるように私自身が導いていく責任を感じています。

## ブランドと仕事 ⑥

専務理事・事務部長 箕輪 比呂志



7月中旬の猛暑の折、毎年この季節に定期開催されている日本病院学会に参加してきました。この学会は、医療の質向上を目指して様々な医療機関が取り組んでいる事例を共有できる学会です。ここで松田病院（静岡県浜松市）の看護部の方の発表を聴講する機会がありました。松田病院は高木由利院長が恩師として尊敬している松田保秀院長がいらっしゃる病院です。演題名は「ドアノブ効果を実践して」でした。それは、看護師が「患者様に対して、自分が担当であることを名乗ること」が患者様に安心感を与え、信頼関係につながるという内容でした。このことをきっかけにドアノブ効果を調べたところ、カウンセラー用語だということが分かりました。例えば、部屋から出て行こうとドアに手をかけた時に、フッと思い出したように「そういえば…」のように、ドアに手を掛けた時に何かを思い出すことが多いことから名付けられたようです。つまり、ドアノブに手を掛ける時に話す内容に重要な事が多いためです。私がこの場面をふと描いた時、心に残る印象深い事例が浮かんできました。それはアメリカのテレビ番組、「刑事コロンボ」です。犯人と思しき人との面談を終えて汚れたコートをもとい立ち去る時に、犯行の鍵となる言葉を質問形式で言う場面です。この学会聴講をきっかけとしてコロンボ刑事の言動とカウンセラー用語である「ドアノブ効果」との相関に初めて気が付きました。

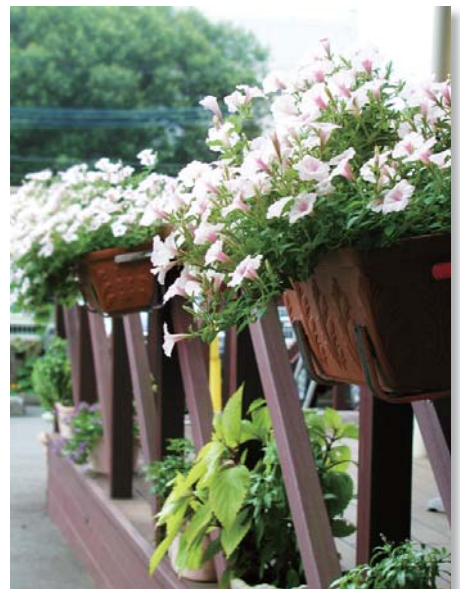
\* \* \*

前回、6月号で「ブランド作り」から「ブランド創り」としました。これは、「創造」という意味合いを含めて、それまで無かったことを初めて創り出すことが大切だということを伝えたかったのです。従来の織本ブランドの悪いところを排除し、良いところを継承していくことが大切です。将来に向けて病院ブランドに磨きを

かけていく為に職員の皆さんの力が必要なのです。だから全員の方に関わってもらいたいのです。

\* \* \*

最近も私達のちょっとした行為が患者さんの心に影響を与えていると感じた時がありました。この7月、台風一過としては涼しい午後、当院の正面玄関近くのカフェテラスの脇を車椅子にお母様を乗せて散歩をしている方が通りました。その方がお母様に、「ほら、デッキに綺麗な花が飾ってあるでしょう。まるでヨーロッパみたいね。お散歩の帰りに、あそこでお茶でも飲みましょう。」と話しかけていました。ちょうど1週間くらい前に、施設用度室メンバーと洗濯場の女性メンバーが中心となってプランターの植物を夏向きの花々に植え替えたばかりで、夏の光を浴びて育てていました。私は、たまたま花柄摘みをしており、この光景に出会いました。デッキのガーデニングだけではなく、来院される方々を少しでも癒すために、心を込めて行えば無駄な行為は無いと感じました。外来、病棟などでの職員の皆さんと患者さんとの会話、毎日の治療の準備、手際等も同様だと思います。



患者さんは何かを求めています。もしかしたら当院の職員からのちょっとした声かけを待っていらっしゃるかもしれません。

\* \* \*

ここから、再び「ドアノブ効果」に話題を戻したいと思います。

皆さんは、大切なことを誰かに相談したり打ち明けたりするときに、どんな風に話を切り出しますか？仕事の打合せや面談の場面では、その場の目的（話すテーマ）がはっきりしているので、挨拶やちょっとした近況報告の後にすぐその日の主なテーマに移るのが一般的です。ではプライベートではどうでしょうか。友人や知人への相談や大切な話をしようと思うとき、話しを始めづらいことはないでしょうか。話し出そうと思っても、自分が困っていたり悩んでいたりする

ことは、口に出しにくいものです。そして帰り道や別れ際になって、「そうそう、こんなことがあって…」と話し始めてみるけれど、時間切れで詳しく話せないままに別れてしまったことがないでしょうか。このように、自分にとって大切な話題であればあるほど、最後の一言でしか表現できないことがあります。立ち去る間際の何気ない一言が大切だということです。日常生活でも、「ドアノブ効果」を意識して相手の最後の言葉をもらさずに聞いていると、時々相手の本音や最も言いたかったことが見えてくることがあります。これをきっかけに、当院での接遇勉強会でも触れた「患者さんから視線を外すタイミング」を少し遅らせることを試してみませんか。少しの間合い作りが大切なことを引き出すための時間となり、本来の手助けができるのだと思います。

## 腎不全外来から命のメッセージ

腎不全外来 専任クラーク 坂内 繁子



当院には、様々な生活習慣や遺伝などから腎臓に障害をきたし、腎臓の機能が全うできなくなった腎不全の患者様が大勢来院されています。透析に入られている患者様と、まだ入られていない保存期の患者様と大きく分けて2つの外来があります。

保存期の患者様達は、薬では治らず必ず進行していく腎不全の病気に対して、進行を遅らせ、できるだけ透析を先延ばしするための食事療法を医師、栄養士の指導の下に取り組んでおられ日々の生活を過ごされています。口に入る全ての食材を吟味し計量し、指示された「たんぱく〇g、塩分〇g、エネルギー〇kcal」をご自分の生活スタイルに合わせて設計し、残された腎臓に負担をかけないようにして進行を遅らせているのです。私は健康のためのダイエット中に、このお菓子を食べようかどうしようかと迷い、結果「まっ、いいか。食べちゃお。」という場面が多々あり自分の意思の弱さに直面するのですが、保存期の患者様にこの「まっ、いいか。」はないのです。

他院で「透析に入りましょう。」と医師に診断され、

当院の外来に来られたKさんは、この食事療法を生活に取り入れ透析に入らず8年が経ちました。食べたい、計量に疲れたなど幾度となく起こる心の不安や葛藤を乗り越えて「透析を先に延ばす」を目標に立ち上がって自立されていく患者様のお姿は本当に感動いたします。

しかし、ゆっくりでも必ず進行するこの病気は「透析に入る時」が必ず来ます。先日職員の学び会で「透析に入る時の患者様の心理」について話し合いがありました。目標を失った不安と今まで頑張ってきた自分への後悔と敗北感で自信を失うとありました。患者様が保存期に培われたご自身の体についての知識と理解と慈しみは宝であり、揺るがない土台を築かれたと思います。世に溢れている欲望のみから生産されたおぞましい食品を断ち切り、60兆個の体の細胞たちが歓喜するような食事を選択され日々実行されたことはなんと素晴らしいことでしょう。

この体験を通して透析に入られた患者様のMさんは、通常3回の透析を2回で身体の状態を保たれて

います。先に見えるのは決して敗北感ではありません。私たち職員も忍耐の中にある患者様と共に歩みな

がら、この喜びと希望を持ち続けてまいります。

# 織本農園だより

こんにちは。織本病院園芸部です。

既にご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、当院には正面玄関の脇に小さな畑があります。ここでも毎年、夏と冬に収穫できる野菜を育てています。

私達が畑にいと、多くの患者様から育て方のアドバイスや収穫が楽しみなどというお声をかけて頂きます。患者様の中には農家を営んでいる方もいらっしゃる、プロならではのコツなども教えて頂きました。このようなお声かけが大変嬉しく、そして私達の楽しみでもあります。

おかげさまで今年の夏も、トマトやきゅうり、かぼちゃ、ピーマン、じゃがいも等、たくさん野菜を収穫することができました。

これからも様々な野菜を育て、そして皆様との交流を図っていききたいと思っています。

どうぞよろしくお祈りします。



## 第124回 腎疾患ゼミナール

『あなたと私と腎不全 ⑥』 腎臓内科：高木由利

～腎不全の食事療法のからくり～

何でもかんでも制限すればいいって本当？③～

リハビリテーションセンターからのワンポイントアドバイス

『日常の中に“ながら運動”を取り入れよう』

どなたでもご参加頂けます。皆様ぜひお越しください。

日時：2011年8月18日(木)

午後1:00～

会場：オリモトホール(当院4F)

参加費：無料



— 2011年 腎疾患ゼミナール 後期日程 —

【ワンポイントアドバイス】

第125回 9月 8日(木) 栄養科(レシピ・試食付き)

第126回 10月13日(木) 薬局

第127回 11月17日(木) 栄養科(レシピ・試食付き)

第128回 12月 1日(木) 特別企画『レストラン・ユリ』